

国・公・私立大学の新任教員が大学の壁を越えて学び合い、交流する



# 第10回 新任教員研修セミナー

## アクティブ・ラーニング、その導入から深化へ — オンラインでも学び続けるチャレンジ —

2020年8月31日(月)～9月1日(火)

主催：公益財団法人 大学セミナーハウス

共催：公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

zoom を用いた  
オンラインセミナー

※予定されていた2泊3日の  
セミナーがwebセミナーに変更と  
なりました。

近年の日本の大学教育では、たしかな知識や技能を身につけるとともに、分野や立場の違いを超えて協働することのできる知性を育むことが求められています。また、激しい変化の時代を豊かに生き、社会に貢献していく能力の基盤となるような、学び続ける姿勢や力を培う教育も切実に希求されています。こうしたかつてないほどの期待と要求に応えるべく、多くの大学に導入されたのがアクティブ・ラーニングであることは言うまでもありません。しかし、そうした学びを引き出していきべきわたしたち大学教員の理解やスキルは必ずしも十分ではない、というのが実感ではないでしょうか。

アクティブ・ラーニングは、導入から量的な拡大という段階を経て、今まさに質的深化が問われる時代へと突入しています。そうした深化に資するために、本セミナーでは、アクティブ・ラーニングを円滑かつ効果的に実施する上で不可欠な相互理解や人間関係の構築に始まり、発達障害などの困難を抱えた学生への対応に至るまで、アクティブ・ラーニングの基礎、理論、様々な実例などを体験的に学び、参加者がそれぞれ担当している授業を質的に深化させる機会を提供します。

そして、言うまでもなく、今回のコロナ禍により、高等教育は多くの困難に直面しています。その中で、学生たちの学びを止めないように、大学教員は様々な工夫をして授業を行なっています。しかしながら、「オンラインでのアクティブ・ラーニングは難しい」「資料の準備や課題の添削に追われて倒れそう」「学生の反応が見えない」「成績評価をどうしたら良いのか」「ICT環境が十分でない学生への対応はどうするべきか」「オンライン授業に関する支援部署がない」など、教員の悩みは尽きません。そこで、今回で第10回目となる本セミナーでは、「アクティブ・ラーニング、その導入から深化へ — オンラインでも学び続けるチャレンジ —」をテーマに開催いたします。

大学セミナーハウスは、大学教員相互の交流を図ることによってわが国の大学教育の向上・発展に寄与することを目的としており、今年度も学術・文化・産業ネットワーク多摩との共催で国公立大学の壁を越えたオンラインセミナー形式の新任教員研修セミナーを企画しました。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

新任教員研修セミナー運営委員長 菊地滋夫



## 募集要項

【対象】 国公立大学で授業を担当する新任教員の方（年齢不問）

【定員】 50名

【費用】 大学セミナーハウス協力会員校の大学教員 15,000円  
学術・文化・産業ネットワーク多摩会員校の大学教員 20,000円  
一般校教員 25,000円

【開催方法】 web会議システムzoomを用いたオンラインセミナー

【申込方法】 大学セミナーハウスHPより

【申込締切】 2020年8月28日(金)

【問合せ先】 大学セミナーハウス・セミナー事業部

TEL : 042-676-8512 FAX : 042-676-1220

E-mail : seminar@seminarhouse.or.jp

URL : <https://iush.jp/>



# セッションタイトルと要旨

## 第1日目 8月31日(月)

【趣旨説明】 明星大学学長補佐・人文学部教授 菊地滋夫  
オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの課題

【セッション1】 東京女子医科大学看護学部准教授 諏訪茂樹  
オンラインで相互理解を深め、人間関係を築くコミュニケーション・ワーク

大学での新しい仲間との出会いは、生涯の友を得る貴重な機会となる。しかし、社会経験の乏しさから人間関係を上手く築けず、深入りし過ぎてトラブルになったり、孤立してしまったりする学生もいる。キャンパスでの交流が難しい場合でも、学生の仲間づくりをサポートし、新しい環境への適応を促すコミュニケーション・ワークを紹介する。

【セッション2】 東京農工大学グローバル教育院教授 藤井恒人  
大学生の育った環境、受けてきた教育—「高大接続」の視点から—

今年の大学1~4年生の多くは1998年~2002年生まれである。いわゆる“脱ゆとり世代”の彼らが育った環境、受けてきた教育をまず概観する。次に学習指導要領の変遷、入試制度の多様化などを踏まえながら、大学教員が接する学生、保護者の特徴を共有し、留意すべき事を参加者のみなさんといっしょに考えたい。

【セッション3】 関西学院大学ライティングセンター准教授 福山佑樹  
アクティブ・ラーニングの理論と実際

アクティブラーニング(AL)は高等教育において定着してきているが、効果的に実施するためにはALが求められるようになった背景など、その基本的な考え方を理解することが大切になる。本セッションでは、理論に加えて、実践例を紹介し、対面授業・オンライン授業でALを効果的に取り入れるためのヒントを提供する。

## 第2日目 9月1日(火)

【セッション4】 芝浦工業大学教育イノベーション推進センター教授 榊原暢久  
アクティブ・ラーニングを機能させるための半期の授業設計

オンラインで学生が授業の到達目標に達するようにアクティブ・ラーニングを機能させるには、事前の授業設計が必要である。半期の授業設計部分では、授業の到達目標を確認し、その評価方法、授業方法、授業外学修課題について考える。

【セッション5】 明星大学副学長・人文学部教授 菊地滋夫  
多様性が活きる学びを目指して

発表者が経験した授業における失敗の歴史を振り返り、試行錯誤しながら取り組んできたアクティブ・ラーニング型授業を紹介する。そして、その過程で気づかされた「多様な学生が助け合い、支え合いながら、能動的に授業に参加すること」の意義について、今日の高等教育の課題を踏まえて論じる。今年度前期の実践例も合わせて紹介する。

【セッション6】 東京都立大学大学教育センター准教授 伏木田稚子  
今日からはじめるアクティブ・ラーニングの実践準備

学生がオンラインでよりよく学べる環境を整えるために、どのようなアクティブ・ラーニング(AL)を実践すればよいのか。ここでは、これまでのセッションの内容を振り返りながら、自身の授業にALを取り入れるとしたら、a) 何の学習テーマに関して、b) どのタイミングで、c) どのような活動を設定できそうかについて具体的に考えてみたい。

【セッション7】 明星学苑府中校事務長 村山光子  
困難を抱える学生の理解のために——合理的配慮を踏まえて——

2019年度の高等教育機関進学率は82.6%と過去最高となっている。進学率の高まりとともに多様な学生が大学等へ入学する中、特に発達障害を中心とする困難を抱えた学生への対応について、オンライン授業で留意すべき点にも触れながら、2016年4月に施行された障害者差別解消法および合理的配慮の視点から参加者の皆さまとともに検討・共有したい。

# プログラム



## 第1日目 8月31日(月)

10:00 ~ 10:15	開会
10:15 ~ 11:45	【セッション1】
13:00 ~ 14:30	【セッション2】
14:45 ~ 16:15	【セッション3】
16:30 ~	情報交換会

## 第2日目 9月1日(火)

9:00 ~ 10:30	【セッション4】
10:40 ~ 12:10	【セッション5】
13:25 ~ 14:55	【セッション6】
15:10 ~ 16:40	【セッション7】
16:55 ~	閉会



## 運営委員

◇委員長◇

明星大学学長補佐・人文学部教授・・・菊地滋夫

◇委員◇

東京女子医科大学看護学部准教授・・・諏訪茂樹

関西学院大学ライティングセンター准教授・福山佑樹

東京都立大学大学教育センター准教授・・・伏木田稚子

東京農工大学グローバル教育院教授・・・藤井恒人